

事例 : No. 11

高性能林業機械導入による生産性向上と人材育成

1. 林業事業体等名 ゆうげんがいしゃ 森岩木材 (岡山県美作市)

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 2,750 m³ (うち 間伐の占める割合 91%)
②生産する主な樹種 スギ・ヒノキ
③素材生産に関わる作業員数 5名 (1セット5名× 1セット)

3. 取組の特長

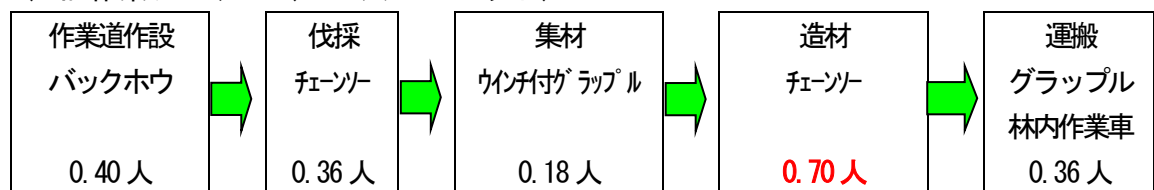
- ・地元森林組合と連携し、森林所有者に施業の集約化を働きかけると共に、高品質の木材を生産するため丁寧な間伐の実施に努めている。
- ・製材業・建築業を兼業しており、森林整備から木造住宅建築まで一貫した地域材利活用の取り組みを進めている。
- ・平成24年度に森林整備加速化・林業再生事業でプロセッサを導入し、労働生産性の向上に努めている。
- ・協力事業体と連携し、互いの保有する林業機械の特性を活かした稼働率の向上に努めている。
- ・平成25年度に2名を雇用し、各種研修制度等を活用して育成に努めている。

4. 具体的な内容

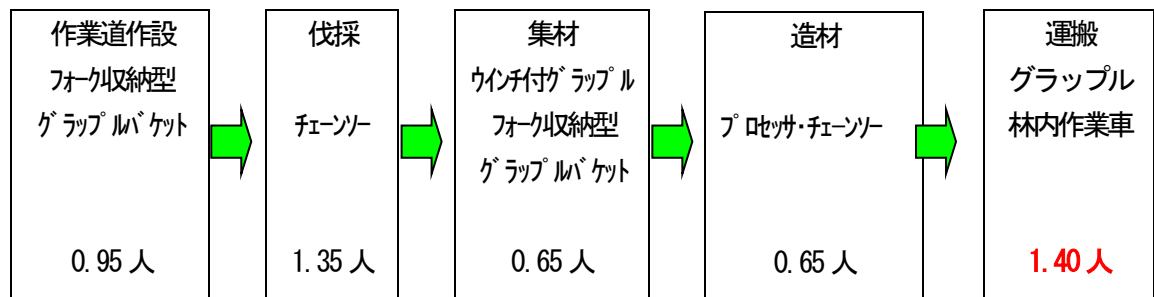
プロセッサに加えて、平成26年度にはフォーク収納型グラップルバケット（ウインチ付）を導入し、作業道作設、ウインチ集材、造材の工程を大幅に効率化した。

- ①施業方法：高性能林業機械を活用した生産性の向上
②使用機械：ウインチ付グラップル1台、フォーク収納型グラップルバケット（ウインチ付）1台、プロセッサ1台、グラップル2台、林内作業車2台
③作業システム：

1) 旧作業システム（2人／1セット）



2) 現行作業システム（5人／1セット）



④労働生産性及び素材生産コスト：

利用間伐	旧作業システム		現行作業システム	
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)
	2.77	10,985	3.27	9,358

- ・新作業システムにより、労働生産性が約 18%向上し、素材生産コストが約 15%削減された。

5. 今後の取組等

- ・高性能林業機械の稼働率を上げるため、集約化を進め施行地の確保に努める。
- ・新作業システムでは、プロセッサの導入により従来ボトルネックとなっていた造材工程、フォーク収納型グラップルバケット（ウインチ付）の導入により作業道作設、集材工程の効率化を図ってきたが、運搬工程に負担が増えつつあるため、新たに大型のフォワーダの導入を計画している。
- ・新たな機械システムを最大限活用できるように、林業専用道の整備を市町村や森林組合に働きかけ、路網計画の抜本的な見直しを図る。
- ・収益性を高めるため、現況の素材生産、製材、建築業に加え、木質バイオマス利活用や林産物の生産等多角的な収益確保と地域内資源の循環に努める。
- ・各種研修制度等を活用し、新規に雇用した若手従事者の技術向上に努める。



【フォーク収納型グラップルバケットによる作業道作設】



【プロセッサによる造材】

【問い合わせ先】

所属：岡山県美作県民局農林水産事業部勝英地域森林課

役職・氏名：主任 牧本卓史

連絡先：0868-73-4058